

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
 第 127 回放送の概要 (2017 年 11 月 25 日放送)

パーソナリティ
 たろう
 (佃 由晃)
 なか
 (中嶋邦弘)
 かりん
 (妹尾優香)
 あな
 (岸本幸恵)



ミキサー
 門ちゃん
 (門田成延)

会計
 小山俊則

相談役
 わだかん
 (和田幹司)

1. ゲストコーナ (1) NGO 神戸外国人救援ネット・WORKMATE・社会福祉士 村西優季さん

村西さんは、お父さんの仕事の関係で、アメリカのシカゴに小学校 5 年生から高校卒業まで約 8 年間滞在しました。番組には YWCA で日本語講師をしている柏原かおりさん (72 陽会) も参加し、柏原さんはイギリスに 2 年、アメリカに 4 年滞在した経験がありました。村西さんは日本では友達関係がうまくいかず、苦しかった時にアメリカに行ったが、アメリカは色んな国から来た人が暮らしており、自分自身がマイノリティで大変だったこともあったが、世界の広さを感じ、日本で苦しかったことが小さなことと思え、シカゴの雰囲気が好きであった。

シカゴでは日本から来た沢山の人が暮らしていた。大阪出身の村西さんと日本中のいろいろな地域から来ていた人がいたので、大阪で当たり前の文化が違うことに気づき (目ばちことは関西以外は言わない)、日本では韓国、中国は外国であるが、シカゴでは韓国、中国の人を見ると文化が似ており、一緒にいてすごく楽に感じた。また白人はアメリカ人と思っていたが、ひいおじいちゃんはポーランドから来たとか、アメリカ以外にルーツを持つ人がたくさん暮らしていることを知った。平日はアメリカの学校に通い、土曜日は日本人学校に通った。英語を覚えるのが大変で、学校からの英語のプリントなどは村西さんが読み、英語のわからない母親に伝えたり、自分も学校の勉強についていくのが必死の中、妹 2 人の学校からのプリントも読んで母親に伝えていた。買い物でも通訳したりするなど、よくわからないのにならなければならないのが大変だった。現地の学校にはバイリンガルのクラスがあり、国語の授業はバイリンガルのクラスで英語を勉強し、算数、図工などは現地の子どもと一緒にのクラスで勉強した。



高校卒業式

渡米 1 年後に素晴らしい先生が来て、英語の文法や言い方を徹底的に教えてくれた。そのお陰で英語力が

一気に上達した。

柏原さんの海外生活は、村西さんのお母さんの立場であるが、子供は小さくて通訳してくれないので一人で頑張っていた。村西さんが通っていた現地の小学校のバイリンガルクラスは日本語だけで、隣の校区から通学していた。中学・高校はESLクラス（English as a Second Languageの略で、英語を母国語としない人たちへの英語教育をするクラス）で、そこで一気に韓国人、中国人他多くの国の生徒と友達になった。

高校卒業後帰国し、関西学院人間福祉学部に入學し社会福祉学科を専攻した。福祉関係を選んだのは、アメリカで外国人として暮らし、バイリンガルクラス、ESLクラスなど外国人に対するサポートがあり、その時に日本で暮らしている外国人はどうしているのか、そのような人達に関われることをやりたいと思っていたので、そのような勉強が出来る学部を選んだ。学生時代同じ学部の社会起業学科の学生が、日本で暮らすアジア人のお母さん達が料理を作り、カフェや屋台で販売することでそのような人達の仕事を作る社会起業の実践をしていたのでそれに参加した。その中で外国人の相談に関わることをやりたいと思い、学生時代に相談事業をしている団体に実習に行き、その時お世話になった先生の紹介で、卒業後NGO神戸外国人救援ネットで働くようになった。

神戸外国人救援ネットは阪神大震災発生時に、当時被災した在住、留学生などの外国人を支援するために生まれたもので、被災者が受けられる支援制度などの情報を多言語で発信すると共に、支援が受けられるようサポートした。震災直後の混乱が落ち着いた後も、日常的に在留資格などについて外国人から相談を受け、その後も引き続き活動を続けている。村西さんは卒業後救援ネットの事務局として働くようになった。震災直後は当時の被災者を支援するいろんな団体があり、その中の外国人分化会があり、それが救援ネットに繋がった。活動拠点は現在のカトリック中央教会に置かれた。



2. ミュージック：

お送りしている曲は、WMIBA（ワールドミュージックインターネット放送協会）より提供いただいた、サクソプレーヤー米澤美玖さんのアルバム「Landscape」より「Scorpion Rocks」です。



3. ゲストコーナー（2）

救援ネットの重要業務である「多言語による外国人のための生活相談ホットライン」は、神戸カトリック

ク中央教会で毎週金曜日にオープンし、英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語に対応可能で、中国語、ベトナム語、ロシア語やその他の言語は事前予約制で対応している。救援ネット側の対応者は、通訳者及び相談員で村西さんは事務局兼英語通訳者として参加している。金曜日は相談者を含め5~6人のメンバーで、電話ないし面談で対応している。NGOの活動を長年やっている人が相談員として対応している。救援ネットの事務局は村西さん一人である。

相談件数は、毎年新規は100件を超えており、昨年は145件であった。同じ人が同じ内容の相談の場合はこの件数に含まれていない。相談内容は、在留資格に関するものが一番多く、これはどの相談も在留資格に関係してくるためである。国際結婚の家族、外国人同士の家族内のトラブル、医療、労働・社会保障・教育などの相談がある。相談を受けてもその場で解決は出来ず、後日、区役所など公的機関の窓口をはじめとする必要な機関に相談者、相談員、通訳者が一緒に行き、必要な支援を受ける。一番力になるのは弁護士。

通訳者は他に仕事を持っており、金曜の相談日だけ対応できる人、結婚し子育てに余裕が出来たので対応してくれる人もいる。金曜日に受けた相談を月曜日から対応することも多く、事前に予定がたてられないのでバタバタすることが多い。行政窓口の都合を聞いた上で通訳者などに依頼するので大変である。また通訳者の都合で行政に変更依頼することもある。相談者が当日現れない場合もある。金曜日に相談に来た人が帰宅し、家族と話した結果、救援ネットの方針では対処できないと言ってキャンセルすることもある(例えば旦那さんの立場上、周りに波風を立てることになるのでそっとしておくといったことがある)。

相談件数の多いフィリピン国籍の方は、教会のミサに沢山来られていることもあり、口コミで相談に来る人が多い。日本に働きに来た女性が日本人と結婚したが、言葉の問題、文化の違いから離婚するケースが多く、日本の離婚手続きに関する相談、日本人と結婚した女性は配偶者という在留資格になるので、離婚するとその資格がなくなるのではという心配の相談が多い。日本国籍のある子どもをお母さんが引き取って育てる場合は、別の資格に変わるが日本に滞在はできる。婚姻期間が長い場合、定住者、永住者の資格に変わっておれば問題はない。離婚し母子が生活を続ける場合、児童手当、児童扶養手当などが大事であるが知らない人が多く、社会保障が受けられるようにする手続き、学校の転校、転入に関わるサポート、保育園の申し込み、新しい住居を探したり多種多様の相談がある。

相談は行政に関わるものが非常に多いが、相談者が救援ネットを頼るのは、行政窓口で自分の置かれた状況を説明するのが難しく、中途半端な状況に置かれ切羽詰まって相談に来ている。行政窓口も日本語での会話が難しい場合、一度救援ネットに行くよう勧めている。日本滞在が長く日常会話に問題なくても、制度の話は理解が難しい。

村西さんのもう一つの活動である **WORKMATE** は、2014年から活動を始めたもので、救援ネットは緊急的対応が必要なものを扱っており、救援ネットに来た相談者のその後の日本語習熟、仕事探し、離婚し母子での生活になった時の子育ての悩みなど、生活面の相談などに対応する団体で、救援ネットの運営委員もしているメンバーと一緒に **WORKMATE** を作った。日曜日にお母さんが日本語を勉強する傍で子ども達は学校の勉強をしたり、お母さんの母語のタガログ語を勉強している。そこには母子が一緒に来る

ので、学校からの手紙がわからないとか子育てに繋がる相談にも対応している。

国際結婚している人で仕事や生活のために日本語の勉強が必要な人については、村西さんから神戸YWCA で日本語講師をしている柏原さんに依頼がある。また柏原さんの学習者が緊急に困ったこと（離婚、DVなど）が起きた場合は、村西さんに相談を聞いてもらっている。



救援ネット 20周年記念パーティー



WORKMATE クリスマスパティー

移住者の支援に携わっている団体、研究者、ジャーナリストなどが加盟している全国レベルのネットワークである移住連（移住者と連帯する全国ネットワーク）の活動目的は、多文化共生社会達成のために政府への提言活動を行うことである。NGO 神戸外国人救援ネットとWORKMATE は移住連に参加しており、村西さんは移住連の代表として国際会議に出席している。



国際会議ベルリン2017

移住連が取り上げている問題のうち重要なものは、

①技能実習制度の介護分野への拡大、②人種差別撤廃基本法・ヘイトスピーチ解消法、③外国人の管理強化や排除、などがあり、国に対して提言をしている。③については、日本の労働者人口減少に伴い、介護や単純労働に従事する労働者人口減少を外国人が補っている。労働環境が悪く外国人が逃げ出そうとしても在留資格など外国人管理に関する厳しい法規制があり、また来日するにあたり必要な渡航費、生活費、日本語学習費など多額の借金を出身国でしているという問題がある。これは日本だけでなく、インド、バングラデシュ、ネパールなどから中東へ出稼ぎする人も同様に借金を抱えコントロールされている。入管法が最近改定され管理が強化された。外国人を受け入れている国内企業が不当労働行為をしても、外国人が会社に文句を言えないように管理が悪用されている例もある。職場の問題を外部に発信しようとしても、会社は在留資格にからめようとするので、職場の問題を外に発信しづらい実態がある。

NGO 神戸外国人救援ネットは、相談者の問題解決のため同行通訳支援を行っており、通訳者にもわず

かではあるがお礼をしています。

救援ネットの運営費は少なく、相談者も金銭的余裕はなく苦しい生活をしているので、外国人が増加していく中で活動を継続していくための資金が不足しています。

2018年2月28日まで寄付金を募っています。


**日本で暮らす外国人が
安心して相談できる窓口を守るため
寄付金をみんなで集めます！**



ベトナム出身のエーさん 賃金未払
ブラジル出身のビーさん 病気
フィリピン出身のシーさん 家庭内暴力

目標金額：**150**万円 募金期間：**2018**年**2**月**28**日迄

NGO 神戸外国人救援ネット 事務局
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通 1-28-7
TEL&FAX：078-271-3270 E-mail：gqnet@poppy.ocn.ne.jp
ホームページ：<http://gqnet.webcrow.jp/> 事務局開所日：月・水・金 13:00～18:00 担当：村西 優季

寄付の仕方 

郵便振替による寄付

口座番号：01100-2-60701
口座名：NGO 神戸外国人救援ネット

通信欄に「相談窓口寄付」とご明記ください。
お礼状と領収書を郵送いたしますので、お名前、
ご住所、電話番号をご記入ください。

銀行振込による寄付

ゆうちょ銀行 店名：四三八
普通：8939932
口座名：NGO 神戸外国人救援ネット

お礼状と領収書を郵送いたしますので、お振込み後、お振込み日、金額、お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを事務局までメールまたはFAXでご連絡ください。

4. こぼれた話こぼれなかった話：大学入学共通テスト 英語は民間試験が義務に

大学入試センター試験の英語は2020年度から替わります。英語の「読む、聞く、話す、書く」の4技能を評価するとして、20年度から23年度までは、マークシート方式と民間検定試験との併用で、24年度からは民間検定試験に全面移行されます。

みなさんがよく知っている①実用技能英語検定（英検）、②GTEC（スコア型英語4技能検定）、③IELTS（アイエルツ＝海外留学・移住向き）、④TEAP（大学向けの英語能力検定）、⑤ケンブリッジ英語検定（同）、⑥TOEFL（トーフル＝米国教育試験サービス）、⑦TOEIC（トエイック＝国際ビジネスコミュニケーション能力検定）などです。

17年度中にどの民間検定試験が共通テストに採用認定されるか、また、この素の試験点と語学力国際標準規格CEFR（セファール）の6段階評価との比較など、具体的な成績の利用方法に関するガイドラインが決まります。いままでやってきた共通テストの結果と民間検定試験の関連性を明確にしないとイケないでしょう。

受験生がこの認定された民間検定試験を受けるには、センターに申請して、高校3年生の4月～12月に多くても2回まで受験出来るそうです。

一発勝負ではなく、広い範囲での本当の英語能力を評価してもらえるのはありがたいことですね。

5. 地域瓦版

第23回神戸ルミナリエ2017、今年のテーマは未来への眼差しです。開催日程は12月8日～17日

です。昨年は 325 万人来場、今年は 40 万個の LED が使われる。噴水広場では食と音楽が楽しめます。15 日は第 15 代ジャズクイーンの高橋リエさん（武陽会）が出演されます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記 URL で視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>